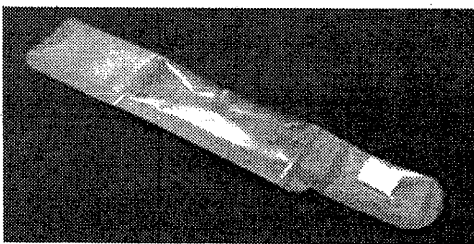


ゼリー剤で手軽に服用

モリモト医薬が新剤形技術



ゼリーを押し出しながら服用する

モリモト医薬（大阪府吹田市、盛本修司社長、06・6380・8522）は、ゼリー剤を活用した新剤形「GT剤」を開発した。錠剤の課題である服用時の飲み込みにくさや製剤時の手間の多さを解決。オプラートに包んだ薬品粉末と、柔らかいゲル状のゼリー剤を袋内の区切られた別々のスペースに包装し、服用時に押し出すことで、水がなくても口にできる。

29～31日に東京都江戸川区で行われる日本薬剤学会で発表する。

医療用医薬品では薬剤の分量が多かったり抗がん剤など製造に大掛かりな設備と手間がかかったりする製剤向けに、一般用医薬品では栄養剤などでの需要を見込む。

GT剤は三つ折りになった包装を開け、薬剤が入った部分を口にくわえてゼリーを押し出しながら服用する。シール部は

簡単に開くが、使用前は三つ折りにしていること

で100mg程度の負荷にも耐えられる。1包みごとにバーコード管理も可能。製剤には2006年に開発した微量無菌粉末充填技術を活用。薬剤は1mgの微量でも安定して製造できる。

ゼリー剤を薬剤と一緒

に服用することで苦みを感じないようになっている。薬剤量が多い場合のメリットも大きい。薬剤はオプラートに包んでいるため一定量を確実に服用でき、飛散の心配もない。

い。

ゼリー剤と混ぜることもないため、薬剤の安定性やゼリー剤の味の変化への対策が不要。水薬のように気管に入り込んだり、錠剤のようにのどに引っかかるなどのトラブルを防げる。